

令和7年度「学業指導応援チーム派遣事業」の実施校における取組 栃木県立栃木翔南高等学校 第2学年

1 取組の概要

生徒の整理整頓や時間管理、家庭学習の課題を踏まえ、学びに向かう集団づくりと授業づくりに組織的に取り組んだ。教室環境の整備や始業準備の徹底、面談による生活改善を継続するとともに、話し合い・教え合いを取り入れた授業や習熟度別指導を行った。PDCA サイクルを通して改善を重ねた結果、生徒の学習意欲や主体性が高まり、整理整頓や家庭学習に前向きに取り組む姿が見られるようになった。

(1) 生徒の現状等

- 整理整頓が苦手な面があり教材を失くしたり、提出物が遅れたりすることがある。
- 体を動かしたり、グループで考えたり話し合ったりする授業への取り組みが良い。
- 多くの生徒が大学進学を目指しているが、家庭学習時間の確保や学習方法の確立が必要である。

(2) 期待する生徒の姿

学年目標(指導指針)(生徒に期待する姿)

- ① 学習における課題を自ら発見し、自律的に学習に取り組む生徒
- ② 明確な進路目標を持ち、その実現に向けた探究活動に計画的に取り組む生徒

(3) 主な取組

- 教室の環境整備や授業開始への意識付けを軸にした学びに向かう集団づくり
- 意図的な学び合いの機会の提供、承認の言葉がけ等による授業づくり

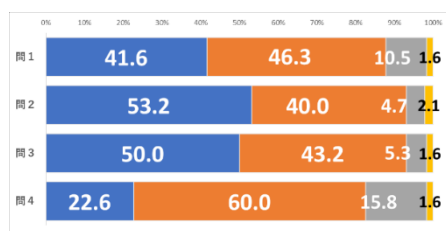
2 学校の取組スケジュール



3 PDCAサイクルで進めた組織的な取組

《実態把握》5月

(1) アンケート結果から



【質問項目】

- 問1 学校が楽しい
問2 みんなで何かをするのは楽しい
問3 授業に進んで取り組んでいる
問4 授業がよく分かる

【回答内容】

- ア 当てはまる(青)
イ どちらといえば当てはまる(オレンジ)
ウ どちらかといえば当てはまらない(灰)
エ 当てはまらない(黄)

- アンケート調査結果の「問4 授業がよくわかる」における肯定的な回答が有意に少ない。この項目に対する取組を充実させることで、他の質問項目への良い影響が期待できるのではないか。

(2) 生徒に関する情報交換から

- 挨拶ができる生徒が多く、大多数は落ち着いて生活している。朝のホームルーム前などの隙間時間を利用して勉強に励む生徒が多い。
- 私物の自己管理や整理整頓、時間管理が苦手な生徒がいる。学習に向かう環境づくりに取り組む必要がある。
- 授業中に興味深い発言(発想)をする生徒がいる。
- 授業中は理解できていても、定期テストでは理解度の低下が見られたり、学習時間を確保できているが、成績に表れていなかったりする生徒がいる。基礎学力の定着に向けて、学習の仕方と内容の見直し等について助言する必要がある。

《学びに向かう集団づくり》

PDCA(第1期)5月～7月		
P(計画)・D(実行)	C(点検)	A(修正)
【具体的な取組】 <ul style="list-style-type: none"> ○ 私物の整理整頓と教室使用のルールを徹底させる。 ○ 始業前の持ち物の確認を徹底し、始業時間に遅れない(授業を始業チャイムから始める)。 ○ 面談を通して一人ひとりの一日の生活を見直し、改善を試みる。(隙間時間の活用) 	【取組の振り返り・生徒の変容】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 整理整頓、持ち物の確認、授業着席ができる生徒は増えている。整理整頓が苦手な生徒に対して、声かけをして一緒に片付けをしている。 ・ 勉強と行事のメリハリをつけるよう指導しているが、この学年は定着に時間がかかる印象がある。 ・ 面談シートで学習時間等の把握をしている。学習時間0時間の生徒もいる。個別の状況に応じて、「できることからやってみよう」と、声かけをしている。 ・ 早めに授業に行き、授業の準備をしながら様子を見ている。小テストに向けて教え合っている姿がある。 <p style="text-align: right;">など</p>	【修正点】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 継続して取り組んでいく。 ・ 「学校が楽しい」について、友人関係で楽しいと感じるだけでなく、みんなと学び合わせるから楽しいと感じさせたい。

PDCA(第2期)8月～12月		
P(計画)・D(実行)	C(点検)	A(修正)
【具体的な取組】 <ul style="list-style-type: none"> ○ 私物の整理整頓と教室使用のルールを徹底させる。 ○ 始業前の持ち物の確認を徹底し、始業時間に遅れない(授業を始業チャイムから始める)。 ○ 面談を通して一人ひとりの一日の生活を見直し、改善を試みる。(隙間時間の活用) 	【取組の振り返り・生徒の変容】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校評価の生徒アンケートでは環境整備の項目で、肯定的な回答割合が高かった。生徒の意識が向上し、以前より廊下や学習室がきれいになっている。 ・ 生徒が意欲的に学習に取り組めるよう、生徒の姿を観察し、生徒の取組を褒めることができた。 ・ 一人一人を見て声かけをしたことにより、提出物の提出率向上したり、授業中の質問が増えてきた。 ・ 生徒間の仲が良くなってきた印象がある。授業のペアワークをスムーズにできるようになった。 <p style="text-align: right;">など</p>	【修正点】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 継続して取り組んでいく。 ・ 生徒に伝わりやすい指示(声掛けのタイミングや言葉の選択)を工夫する。 ・ 家庭学習記録表を活用し、生徒と生活を振り返りながら学習習慣の確立を図る。

PDCA(第3期)1月～3月		
P(計画)・D(実行)	C(点検)	A(修正)
【具体的な取組】 <ul style="list-style-type: none"> ○ 私物の整理整頓と教室使用のルールを徹底させる。 ○ 始業前の持ち物の確認を徹底し、始業時間に遅れない(授業を始業チャイムから始める)。 ○ 面談を通して一人ひとりの一日の生活を見直し、改善を試みる。(隙間時間の活用) 	【取組の振り返り・生徒の変容】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分から進んで定期的にロッカーの中を整理している姿が見られた。 ・ 来年度、受験生になることを意識して、遅刻など改善しようと努力している様子がある。 ・ 次年度のコース選択をきっかけに、進路に意識が向いてきたため、家庭学習時間が少しずつだが、増えている。 ・ 提出物を失くしたときに再度もらいに来たり、提出期限を再確認したりするようになった。 ・ 受験のプレッシャーで緊張しすぎて、学校を欠席する生徒も出始めているので、注意して対応している。 <p style="text-align: right;">など</p>	【修正点】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 進路指導にからめて生活と学習全体への肯定的な面に注目した指導を行い、生徒自らの気づきと変容を促す。

《子どもが意欲的に取り組む授業づくり》

PDCA(第1期)5月～7月		
P(計画)・D(実行)	C(点検)	A(修正)
【具体的な取組】 ○「話し合う」「教え合う」「やってみる」などの得意な活動を取り入れ、授業への意欲を向上させる。 ○習熟度別授業や個別指導で、生徒の学力に応じた学習内容と学習方法を学ばせる。	【取組の振り返り・生徒の変容】 ・授業中や課題への取組状況が2極化している。与えられること+αの学習ができる生徒を増やしていきたい。 ・国語の授業では1分間スピーチ、ペアワークで復習、音読などから開始した。着席に遅れるとペアに迷惑がかかるため、生徒は着席するようになった。 ・100字程度の文章で書かせる課題に取り組ませている。グループで協議してから書かせたり、テストにも同様の問を出題することで、取組状況が改善され、学習内容の定着にも繋がっている。 ・発表のための調べ学習では、調べる方法を生徒に考えさせ選ばせたことで、取組状況が良くなった。 など	【修正点】 ・学び合っている姿を褒められる経験を増やしてあげたい。教職員が共通認識の基、生徒の取組を認める声掛けを増やす必要がある。
PDCA(第2期)8月～12月		
P(計画)・D(実行)	C(点検)	A(修正)
【具体的な取組】 ○「話し合う」「教え合う」「やってみる」などの得意な活動を取り入れ、授業への意欲を向上させる。 ○習熟度別授業や個別指導で、生徒の学力に応じた学習内容と学習方法を学ばせる。	【取組の振り返り・生徒の変容】 ・ペア学習で教え合ったり、意図的に役割を与えたときに学習が活発になる傾向がある。 ・教科横断的な話題を提供すると生徒の関心も向上した。 ・意図的に生徒の意見の良いところを捉えるようにしたり、生徒の学習状況によって難易度を工夫したりした。 ・教科に自信がなかった生徒が、教師の声かけにより、自信をもって取り組むことができた。他の生徒への良い影響の広がりも見られた。 ・学校評価(生徒用)で「教師が教え方を工夫している」という項目の肯定的な回答割合が高い。 など	【修正点】 ・継続して取り組んでいく。 ・苦手科目の授業の中で、生徒の得意な関連分野を発揮できるような場面をつくる。 ・生徒の学力に応じた課題を用意し、自主的に取り組んだことを認める。
PDCA(第3期)1月～3月		
P(計画)・D(実行)	C(点検)	A(修正)
【具体的な取組】 ○「話し合う」「教え合う」「やってみる」などの得意な活動を取り入れ、授業への意欲を向上させる。 ○習熟度別授業や個別指導で、生徒の学力に応じた学習内容と学習方法を学ばせる。	【取組の振り返り・児童生徒の変容】 ・以前よりも授業に真剣に取り組むようになり、クラスの雰囲気も良くなった。授業後の質問も増えた。 ・苦手な分野を強化するための復習プリントを希望者に配布しているが、プリントを取りに来る生徒が増えた。 ・問題が難しくなって理解に苦しんでいる様子も見られるが、思考の過程の良い面を見つけて褒めている。 ・短めの入試問題をときどき解かせているが、辞書で調べたり周りとの意見を交換したりして、難しくても何とか理解しようと頑張れるようになった。 など	【修正点】 ・少し困難な課題でも自ら取り組んでいることを認める。 ・生徒の学力と進路希望に合わせた個別指導や個別の声掛けを行う。

4 成果

【生徒の変容】

- できている点や良い面を認められることで、徐々に落ち着いて生活できるようになった。整理整頓が苦手な生徒でも定期的に私物の片付けをするなど、自主的な行動ができるようになった。
- 各教科での授業改善の工夫により、苦手な科目の中でも自分の得意を活かす方法を発見し、授業に取り組む態度が改善した。
- 科目別の家庭学習時間を記録することで、学習の時間の偏りに気づくことができ、自ら生活リズムを調整して学習に取り組む様子が見られた。



【先生方について】

- 授業や場面によって異なる生徒の様子を知ることで、先生方の生徒理解が深まり、生徒の良い面に注目した指導を行うことができ、生徒との関係性もより良く保つことができるようになった。
- 先生方がこれまで別々に行っていた指導の工夫について情報を共有することができ、学年全体の指導のスキルが向上した。
- 学校全体に2学年の取り組みについて理解を得たことで、授業や清掃など学校生活の様々な場面で指導の一貫性を保つことができ、生徒の安心へと繋がった。

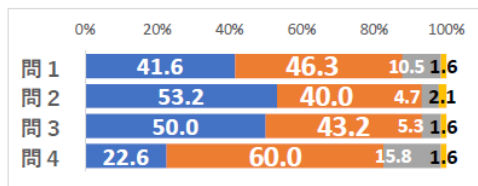
5 今後の取組

- 日常的な整理整頓と清掃による快適な学習環境の維持
- 生徒の自ら学ぼうとする態度や努力に気づき認めることによる学習意欲の向上
- 定期的な学年会での生徒の実態把握と指導目標の修正による学業指導の継続

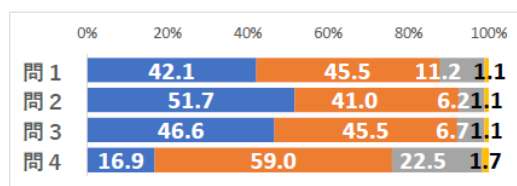
6 参考資料

意識調査の結果

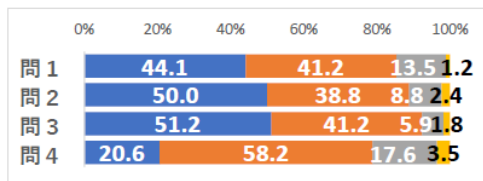
1回目 実施日：4月23日～25日



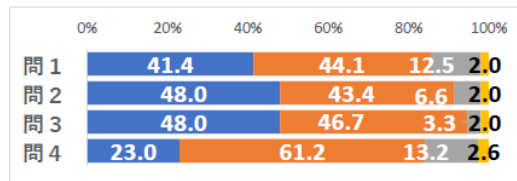
2回目 実施日：7月2日～8日



3回目 実施日：12月3日



4回目 実施日：3月11日～16日



問ごとの変容

